

洛星新闻

最優秀賞

見学してみた。順路に沿って中部・写真部、漫研などは、昨年と
から見ていくと、教室には黒幕
同じような感に終わったのが残
られ、そこしこに忌の文字念た。

年とは高Ⅲの参加がなく少々寂しいものとなったが、高Ⅰ・高Ⅱも「さすが高校生」と思われるような力作で、高Ⅰ・高Ⅱは全く上演した。まず中Ⅰ演劇は「厳格

開会式終了後、二年振りの記念
側面が行なわれた。今年は京都大
学教授長森脇先生。先生は、著書
「YOUNG」など数多くのテレビ・
意識の上に先生は「皆さんの中には
京大へ行こうと考えている人も多
いようですが、京大ってそんな
たいしたことはないんですけどね」
と真つ、先に浴びせられ、入学試験

「マルチ教授」である。先生の
学者の人材についてなま細々と云
された。こんな話で僕の耳を聳

今年度も外来者インタビューを
——うーん。少しダサい。校食
化寮後半の二日間にはわたって行
ケレイすぎるし嫌い。電車の中
で参考書見はるし。暗いわ。

——ニンジンが大きいね。玉
舎内をしきりにウロウロと巡回
て遠巡の星でありましたが、先
の助力を得てようやく六十人余
りです。——ある。あのね、

以下、種々の感想を記すと
――あ、字がきれいやった。心
――あ、字がきれいやった。心
――あ、字がきれいやった。心



見てみると、その時とくになに將來に対して確固たる意志をもつてゐるでもない、結果は全く偶然に支配されてきたとも考えられる。こんな堅苦しいことを考えてみても「その場で何とかなる」ことの大切さが分かつてくる。しかしまあ無理に意義をこじつけるまでもなく、人間の最も基本的な態度であらう。また先生は「巻つこと」を僕らに勧められる。進路にしろ何にしろ山で道に迷つことを楽しむくらいでいたものだ、とも言われた。

先生の話を聞いた後、興味深く感じて著書の何冊かを読んでみた。それはまさに衝撃の連続でも、今まで当たり前と思つてゐた至極當然としていたことが、次々と掘り起こされ、あっさりと否定されていて、これまでにこだわつてきたことがひどくちっぽけに見えるのだ。思ひつゝまことに書き連ねられてゐるだけのようなのに、ウームと納得させられてしまふ。先生の隨筆は学校の管理教育にとつての浸かりきつてゐる僕らに強いショックと新たな目、批判的精神を傾え付けてくれるのだ。一度のもといてみてはいいかがですか。

これ程の人数が揃つてこれ程の演奏が出来るのは素晴らしい。楽器が増えて立派になった。最後の盛り上がり良かった。アンコールもう一つやって欲しい。でも時間ないからしょうがないんじゃないですか。洛星の生徒に対する注文。知ってるのに知らない振りをして通らなくて欲しい。もう少し明るくなって欲しい。高いブランドを持たないでね。自分の学校に対する不満。シスターが嫌。制服が嫌、小さい文化祭が嫌。(ダム女の人達)。人数が多すぎる。講堂のいすがひどく悪い。(京女の人達)。私服なので金がかかること。(同志社の人達)。どの学校に行っても、不満は尽きないものだと思つて考えこんでしまいました。最後に、このインタビュに答えていたたい方、この場を借りて御礼申し上げます。



え込むような感じで、盛大な形を保ちながらも余りとりがないように氾濫していく。そして、平穏になると今度は時計の針回りに同じながら均等にカジっていく。(間違つても、クリームを舌でほしくってはいけない) 脇からカジっていくと、ソフトクリームが真中に盛り上がりつつ盛りが残っていく。それを、また舌で押し込みながらカジっていく。そうして行くうちに、クリームがまったコーンの先端が三センチ弱残る。それを一口でパクッとやってめでたしめでたし……。

や、おいしく食べるって実に骨の折れる事なんですわね。ザビお試しを。

「⑥「フローラ」は休日の午後に行く」と、店内は若い女の手ばかりです。彼女達のまなむを受け取るのを覚悟の上、店のドアを開けることをお勧めします。男がソフトクリームを喰つてそこがおかしい」

